

平成 25 年 12 月 16 日

## 第 11 回 ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合 結果概要

平成 25 年 12 月 3 日から 12 月 5 日、第 11 回 ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合を開催致しました。今回の会合は、「Active Aging」をテーマとして、ASEAN10 ヶ国の保健、福祉、労働政策の各分野の担当行政官及び韓国、協力機関からの参加を得て活発な議論を行い、各国における今後の取組についての提言を採択しました。

### 【開催概要】

#### ● 開催日程・場所：

日程：平成 25 年 12 月 3 日（火）～5 日（木）

会場：品川プリンスホテル（東京・港区）

#### ● 参加者

・ ASEAN10 ヶ国<sup>\*</sup>の保健、福祉及び労働政策の担当行政官 計 63 名

※ ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム

・ オブザーバー：韓国 2 名

・ 協力機関：ASEAN 事務局、世界保健機関西太平洋地域事務局（WHO/WPRO）、国際労働機関（ILO）駐日事務所、独立行政法人国際協力機構（JICA）5 名

・ 有識者：

- － 尾身 茂 独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構理事長  
名誉世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局長
- － 江口 隆裕 神奈川大学法学部教授・筑波大学名誉教授
- － 鈴木 隆雄 独立行政法人国立長寿医療研究センター研究所長
- － 曾根 智史 国立保健医療科学院企画調整主幹
- － 林 玲子 国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長
- － 岩名 礼介 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング主任研究員  
独立行政法人国際協力機構（JICA）社会保障分野課題別支援委員会高齢者対策小委員会委員

6 名

・ 一般傍聴者：33 名

## 【採択された提言】

本会合で共有された情報・知見に基づいて、各国の課題や施策、今後の取組について活発に議論を行い、参加者全員の合意の下、提言（レコメンデーション）を以下のとおり採択しました。

### 前文

「Active Aging<sup>1</sup>」をテーマに 2013 年 12 月 3 日から 5 日まで東京において開催された第 11 回 ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合で、ASEAN+3 各国の保健、社会福祉及び労働分野の参加者は、

今年が ASEAN 日本友好 40 周年であり、我が国と ASEAN 各国の間でこれまでの友好的な関係を想起し、今後のさらなる協力関係の強化と戦略的なパートナーシップを目指し、

ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合を 2003 年より開催している日本政府のイニシアティブに感謝するとともに、第 11 回会合は、保健、社会福祉及び労働分野における Active Aging に関する情報共有と意見交換のための有効な場であることを認識し、

また、本年 11 月に日本政府がジャカルタにおいて ASEAN 地域における高齢化に係る国際貢献に関する講演会（ASEAN-Japan Seminar, The Regional Cooperation for the Aging Society）が行われたことを評価しつつ、地域協力に関する努力の継続とさらなる連携の促進を期待し、

世界の高齢化は急速に進行しており、2050 年には 60 歳以上の人口が 20 億人に達することを留意し、

ASEAN 諸国においては今後急速に高齢化が進み、高齢者の健康保持や、福祉及び社会保障ニーズへの対応、高齢者の孤立・貧困防止などの対策が急務であることを認識し、

保健・福祉・労働分野における高齢化の現状及び対策の推進に際して、ASEAN 諸国は多様であり、また、ASEAN 諸国と日本では置かれている状況や文化・社会的背景が異なること、それゆえ現在直面している課題が異なることを考慮し、

---

<sup>1</sup> 人が年齢を重ねるにつれて、健康、社会参加、社会保障を最大限生かして、生活の質を高めていく取組のこと

さらに、「国際的な Active Aging における日本の貢献に関する検討会」での議論成果に留意する。

### **参加者の合意事項**

我々、会合参加者は、以下の点について合意に至った。

各国において、当該第 11 回会合の議事内容及び結果を担当大臣や幹部に報告する。

日本は、ASEAN 事務局と協力し、本会合の議事内容及び結果を ASEAN+3 保健大臣／高級事務レベル会合（AHMM+3／SOMHD+3）、ASEAN+3 社会福祉開発大臣／高級事務レベル会合（AMMSWD+3／SOMSWD+3）、ASEAN+3 労働大臣／高級事務レベル会合（ALMM+3／SLOM+3）に報告する。

ASEAN 諸国との間の Active Aging に関する協力促進については、12 月に東京で開催される ASEAN 日本特別首脳会合において再度確認する。

### **参加者の提言**

我々は、全ての参加者に以下について求める。

1. 女性が男性より長く生きることを認識しつつ、あらゆる保健、社会福祉政策、労働政策の中に、高齢者のニーズを考慮することによって、人が年齢を重ねるにつれて、健康、社会参加、社会保障を最大限生かして生活の質を高めていけることを保証する。
2. 高齢者のための施策、介護、医療を提供できる専門家の人材育成の取組を進める。
3. UHC (Universal Health Coverage) は Active Aging の基本である重要な政策であることを認識し、UHC 達成に向けた保健及び福祉セクターの取り組みに高齢化対策を取り入れる。

4. 特に、非感染性疾患や認知症を含む高齢者の直面する様々な健康問題への対策に配慮しながら、高齢者に対して適切なサービスを提供できることを保証する。
5. ASEAN 諸国において急速に都市化が進行し、都市部と農村地域における高齢化対策の課題が異なることを認識し、各地域の実情に即した高齢者を支える仕組みを構築又は再構築することを検討する。
6. 高齢者に対するボランティアを含む家族及びコミュニティの役割を再認識し、それらの能力を強化充実する施策を検討する。
7. 高齢者がインフォーマルセクターに従事する者が多いことに留意しつつ、高齢者の社会参画の促進は、高齢者の技術・経験・能力の活用、高齢者の収入確保など様々な観点から重要であることを認識し、労働政策の中に高齢者対策を盛り込む。
8. 高齢者にとって暮らしやすい社会を実現するための政策立案、制度設計及び計画を検討する。これには、経済的な持続可能性に対する検討、民間のリソースの活用、施設や人材に対するガイドラインや基準を含む技術的指針の策定・向上、実践的な訓練が含まれる。
9. Active Aging の推進を目的として、根拠に基づいた政策決定のために、高齢者の特別なニーズに関する情報の質、入手可能性、正確さ、適時性を向上させるとともに、適切な伝達方法にも考慮する。
10. 政府が優れたリーダーシップを発揮することで一層の省庁間、中央政府及び地方政府の間の調整・連携を図ることの重要性に留意する。また、高齢者対策に関して、市民社会や学術研究機関、民間セクター等の関係者とのより緊密なパートナーシップを促進する対策を進展させる。さらに ASEAN+3 の間で継続的に各国の実情及びグッド・プラクティスについて情報交換を行う。
11. 終わりに、高齢化問題は ASEAN+3 における共通の課題であることを認識し、政策対話、技術協力、人材育成などの協力を継続し、充実していくことを期待して、交流を続けることとする。